

令和6年度 第1回定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

会議名	令和6年度 第1回定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和6年7月31日(水) 14:00~16:00
開催場所	いなべ市役所ンビックコア棟 研修室2, 3, 4
出席者	<p>【委員】13名(欠席1名) 岩崎恭典(座長)、和氣城太郎(副座長)、相田直隆、福本美津子、三宅徹、黒田寿美、ニ之タ博和、野田智文、岡正光、小葉松賢治、小林弘樹、中川康司、末吉利教 ※欠席 西田太郎</p> <p>【事務局】25名(欠席5名) 日沖靖(いなべ市長)、山下正史(いなべ市副市長)、小川専哉(いなべ市教育長)、出口和典(いなべ市企画部長)、近藤栄人(いなべ市総務部長)、大川洋海(いなべ市都市整備部長)、岡真水(いなべ市福祉部長)、出口美紀(いなべ市健康こども部長)、若松辰彦(いなべ市農林商工部長)、太田東洋(いなべ市建設部長)、伊藤功(いなべ市教育部長)、中川賢(東員町総務課長)、児玉豊和(東員町健康長寿課長)、末永泰介(東員町建設課長)、丸山太(東員町社会教育課長)、小谷直仁(いなべ市政策課長)、小河信彦(東員町政策課長)、加藤正治(菰野町企画情報課長)、諸岡伸也(菰野町企画情報課政策推進室長)、児玉吏(いなべ市政策課)、堀田彰宏(いなべ市政策課)、西尾みずき(いなべ市政策課)、栗原一生(東員町政策課)、秦由奈(東員町政策課)、藤井隆道(菰野町企画情報課政策推進室)</p> <p>※欠席 日置貴久(東員町町民課長)、伊藤嘉則(東員町産業課長)、南部博輝(東員町地域福祉課長)、太田憲明(東員町子ども家庭課長)、三林大高(東員町学校教育課長)</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 座長及び副座長の互選について 3 定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議に関する指針(案)について 4 市長あいさつ 5 諮問書の交付 6 座長あいさつ 7 定住自立圏共生ビジョン懇談会委員の自己紹介 8 説明事項 <ol style="list-style-type: none"> (1)定住自立圏について (2)第4次定住自立圏共生ビジョン策定スケジュールについて 9 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1)令和5年度取組経過報告について (2)第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンに対する検証結果について (3)第4次共生ビジョンの第1章~第4章について 10 次回の開催について 11 閉会

配布資料	資料1	…定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議に関する指針（案）
	資料2	…定住自立圏について
	資料3	…新たな定住自立圏の形成について
	資料4	…第4次定住自立圏共生ビジョン策定スケジュール
	資料5	…令和5年度 事業取組経過報告書
	資料6	…第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン検証結果について
	資料7	…第4次共生ビジョン 第1章～第4章
公開、 非公開の別	公開	
議 事 概 要		
<p>1 開会</p> <p>2 会長、副会長の互選について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座長に岩崎恭典委員、副座長に和氣城太郎委員が選任される。 <p>3 定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議に関する指針（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1…定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議に関する指針（案）について座長から説明があり、施行が決定された。 <p>4 市長あいさつ</p> <p>5 諮問書の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長から座長へ諮問書を交付 <p>6 座長あいさつ</p> <p>・四日市大学前学長の岩崎と申します。現在の第3次共生ビジョンが令和6年度に終了するので、令和7年から11年までの5年間を目標とする第4次共生ビジョンを策定してほしいという諮問を受けました。第1次から第3次までの振り返りをしますと、医療問題を大きな課題として福祉、教育など様々な分野に力点を置いて構想を積み上げてきました。定住自立圏の計画をすることによって両市町に一定の財政的な支援が受けられます。その計画に則って、成果をあげているかをこの会議でチェックしてきました。最大のチェックポイントとして、人口が維持されているかということです。人口を維持するために共生ビジョンの策定が必要であり、今までの医療、福祉、教育といったものに加えて、働く場、移住定住、そして何より住んでいる地域に対して誇りを持つシビックプライドが重要であると考えています。この地域で人口がそんなに減少していないのは、この地域の交通利便性を重視して企業がたくさん立地されていることが挙げられます。これをどうやって生かして定住環境を作っていくか。いなべ市と東員町だけでなく、菰野町も加わり、この地域の移住定住の環境、産業と観光をどのように進めていくか、それが第4次共生ビジョンのテーマになっていくだろうと思います。今回、ビジョンを策定して終わりではなく、毎年見直して、委員の皆様の評価を加えながら改良していくこととなりますので、ご審議をお願いいたします。</p>		

7 定住自立圏共生ビジョン懇談会委員の自己紹介

8 説明事項

(1)定住自立圏について 事務局から説明。

資料2…定住自立圏について 資料3…新たな定住自立圏の形成について

(2)第4次定住自立圏共生ビジョン策定スケジュールについて 事務局から説明。

資料4…第4次定住自立圏共生ビジョン策定スケジュール

【座長】

- ・ありがとうございました。そもそも「定住自立圏とは何か」ということとこれまでの共生ビジョンをふまえて、第4次共生ビジョンを策定する今後のスケジュールについてご説明いただきました。皆様からご質問ご意見があればお願いします。それでは、概要はご理解いただいたということで、続いて事項書の「9 審議事項」に入らせていただきます。

9 審議事項

【座長】

- ・第4次共生ビジョンが策定されたら、来年からはこの作業をしていくことになると思います。つまり、5年後の達成目標がクリアしてるか、クリアしていなければその理由、新たに付け加える項目がないかを審議することになります。今回は、令和5年度の取組経過報告、第3次共生ビジョンの検証結果をご報告いただきます。それではお願いします。

(1)令和5年度取組経過報告について

【各担当部長】資料5…令和5年度 事業取組経過報告書について説明。

【座長】

- ・市町の思う理由と共に事業取組経過について説明がありました。まずは、説明のあった部分についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。
例えば、P16 教育分野「地域に根ざした特色ある学校づくりの推進」で問題解決学習を実施したにも関わらず、地域・社会貢献を考える中学3年生の割合が目標値を達成できなかった、その理由が受け身だからという説明でしたが、どのように能動的に変えていくか担当としてはどのように考えていますか。

【教育部長】

- ・やはりコロナで、オンラインに慣れてしまったということもあり、子どもたちが表に出ていこうという積極的な動きがないのかなと感じます。これからは社会見学や遠足など外に出ていく機会がありますし、地域の方とのふれあいもあるかと思います。子どもたちがいろんなことを体験する中で、貢献していこうということがこの3年あまりできていないことがあり、受け身になってしまっている現状ではないかと考えております。

【座長】

- ・学校側が子どもを積極的に連れ出すということが必要だけれど、地域の方でちゃんとそれを受け入れて、こういうことを子どもたちに教えよう、あるいはこういうことを子どもたちと一緒に

に考えようという、地域側での受け入れ体制が絶対必要だと思います。それがなく、学校の先生に全部お願いするわけにもいかないだろうと思います。

その時にいつも思いますが、今日せっかく来ていただいている企業の皆さんにまず、企業として何らかの形でご協力いただけないだろうかというのはすごく重要なことだろうと思いますし、DMOもそこにすごく力点はあるのかなど。おそらく、こういうことが次のビジョンにも反映させられるような話になっていくのかなという風に思っています。

このような形で、他に何かご意見等ありませんか。

【委員】

- ・コロナ禍でできなかった部分も当然ありますが、いろんな体験をさせるというのはたくさんやっていますし、地元企業さんの方から本当に手厚くサポートしていただいたりしていますので、中学3年生がそれを地域・社会貢献だという位置づけて全国学力調査の質問に答えているかという技術的な問題があると思います。成果指標の設定自体を考えていく必要があるかなという風に思いました。

【座長】

- ・その質問が実態を表しているかどうか。指標についての疑問が出てきていますので、これもやはり反映させる必要があるでしょう。何か担当課として意見がありますか。

【教育部長】

- ・今後の見直しの中で、この成果指標につきましては、もう少し別の形で子どもたちの意見が反映できる形をとりたいと思いますので、ご理解いただければと思っております。

【座長】

- ・他にいかがでしょうか。よろしければ、ご説明いただいた以外のものの中で、それぞれの立場から質問等があればお願いします。

【委員】

- ・7ページの判定だとAだったんですが、内情は全然違います。寄附講座を作っていただいて医師は増えました。医療がないところに人は住めませんので、医療が大事だなということで医師の確保に本当に邁進しています。ただ、働き方改革が始まりまして、大学病院等の医師を手放したくないという現状が起きております。特にこういう地方の中小病院は医師派遣が止まった状態になっていまして、これから人が住むには、若い人は出産や小児医療が充実していないと住めないですね。出産数の統計を作ってみたんですけど、いなべ市は若干減っているんですけど、東員町は増えてます。旧員弁郡、医師会の領域ですと、出産が増えているんです。非常にいい傾向にあるんですけど、当院での出産件数は減っているんですね。

コロナ患者をいなべ市と一緒に三重県で一番という規模で見えていまして、やはり出産をするときにコロナ患者と一緒に嫌なので他を紹介してと言われて紹介したことがあるのと、里帰り出産を一時期止めていたことで、その影響がまだ残っています。全体では数が増えていますけど、今年の4月から3人いた産婦人科医が2人に減りまして、三重大学の教授にお願いして協力しながら増やそうと思っていますが、桑名総合医療センターでは産婦人科医だけで7人いるんですね。そこと連携をとりたいと思っています。

もう一つ気にしていたのが、やはり高齢者です。都会に住んでいる人がIターンUターン含め、

田舎で余生を過ごしたいと考えても、帰る場所として医療がないと安心して帰れない。脳血管障害、骨折、心疾患あとは救急ですね。東京にいたら助かったのに、田舎に帰ったら助からなかったでは困るので、重要視しないといけない。脳神経外科の先生がいないのと、循環器内科の先生は4人から2人になっている状態ですので、市民の方にはご迷惑をおかけしてます。数は増えてますけど、内容的にはまだまだこれからだと考えております。

【座長】

- ・人数だけを見るのではなくて、特に産婦人科だとか、脳神経外科であるとか、循環器科であるとか、要するに高齢者、それから出産が大いに心配がないような体制を重点的にこれからも取り組んでいかないと、いわゆる定住自立圏としての人口の目標の達成には、なかなか医療の分野で寄与できないというのが現状だというご発言だったと思います。何か判断できるような今後の取り組みが必要になることと、菰野町が今回一緒になったということで医療の連携が考えられるのかなという風に思っています。他にはいかがでしょうか。

【委員】

- ・22ページの地域公共交通の三岐鉄道さんの利用状況で、ご説明がコロナの影響でなかなか数字が戻っていないという説明だったと思うのですが、東員駅は90.2%と少し戻っている感じがします。一方で、阿下喜駅は8割を割り込んでいるということで、その違いは何かということと、私、実はもともと近畿日本鉄道から三岐鉄道にというときに担当していたので、特に気になるのですが、今は定期外とか定期旅客というのはどんな形なんでしょうか。減っているという中で、定期の旅客と定期外の旅客の関係はどうなのでしょう。

【都市整備部長】

- ・定期外と定期の通勤通学の率ですが、定期外は増えています。そして、通勤が全体として減っておりまして、通学としては若干の増です。現在、通勤の方が減っているというのが、委員が仰ったように阿下喜駅で若干減少が起きている。そして、東員駅、星川駅、大泉駅などで若干増えているということで、通勤距離の電車に乗る時間を短くしたいという希望があり、阿下喜駅の利用が減っているのではないかという分析をしております。

【委員】

- ・相当いろんな形でやられているということ、定期外が増えているというのは、本当に乗って残そうという思いが実を結んでいるんだと思います。ありがとうございます。

【座長】

- ・この地域公共交通も次の共生ビジョンの中では大きく位置していて、先ほど（自己紹介の中で）ラストワンマイルの話もありましたけれども、やはり移動困難者もこれから確実に増えていくし、その方々が、例えばいなべ市で言えば、藤原であるとか、そちらの方からどのように医療機関や買いものなど街に出てこられるのか、そういうことを確保しておかないと、なかなか定住には結びついていなかったということがあります。ですから、これも大きな課題になりますので、その時に北勢線の役割というのも大きいだろうなと思います。他にご意見等なければ、資料6をご説明いただきましょうか。

(2)第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンに対する検証結果について

【事務局】資料6…第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン検証結果について説明。

【座長】

- ・資料6に基づいて、第3次共生ビジョンで出来たこと、出来なかったこと、そして出来なかったことを引き続き第4次に含むかどうか。廃止というのは、定住自立圏として共同でやっていくことから廃止するけれど、それぞれの市町でやった方がより効果が高そうだとということで、第4次についてはこれを引き継がないということを考えているというのが廃止だと理解しています。しかし、第4次は菰野町も入るわけで、例えば空き家対策などは、菰野町が入ることにより多様な空き家の情報を得ることができるようになるのだから、より広域で情報をまわした方がいい可能性があると思います。

また、観光はそれぞれの市町で完結するものではないし、むしろ広域的な観光というものをさらに充実強化させる。例えば、御在所岳をはじめとする山をもっと活かす、せっかく菰野町に加わっていただくのであれば、菰野町の方から藤原町の方までの観光ルートや、住みたいと思っている人に紹介できる、そういう情報共有というものが、この定住自立圏で出来ないのでしょうか。東員町は関係ないというわけではなくて、東員町から他に移りたいとか子どもの発達段階に応じて移っていくというようなニーズをきっちりと紹介できるような、そんな仕組みを活かせないだろうかと思います。2つの市町の間で直ちに廃止というより菰野町が入ること、もう一度廃止を考え直すというのもありかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

- ・菰野町と6月28日に結んだ協定の中では、空き家に関して共通課題が見出せませんでした。東員町とは空き家の部分で共通課題があります。令和7年度が始まる時に空き家分野で菰野町との共通課題が見出せるということであれば協定変更の議決をいただいて、一緒に協議していきたいと思っております。

また、産業振興につきましては協定にも記載して、1市2町で協力してやっていこうという方向性があります。廃止についてですが、一部の目標について一度廃止してもっと大事な共通課題に向けて協議していくという形をとっています。

【座長】

- ・1つは協定書の中から外れているというのもありますよということ、ただそれは見直しの中で考えていけることも可能だという話です。全体について何か質問はございますでしょうか。

【委員】

- ・10ページの療育支援のところですが、5番「保護者の療育事業への期待が多様化する中で…」とありますが、東員町も菰野町もそれぞれそこまで大きな市町ではないので、多様化するのに応えるためにはいろんなものがいいと思います。そうすると、1市2町で分担するというのも1つ必要じゃないかなと思います。現に、言語訓練は東員町は菰野町にお世話になっているという現状がありますので、廃止で良いのだろうかと感じました。

【座長】

- ・障がい者、障がい児の福祉サービスというものが多様化しているということだけれど、量が少なく多様化しているのであれば、ある程度広域で対応するとそれで1つまとまりがつくので

はないかと。これはよくある話で、そういう観点から新しい定住自立圏で取り組むべきなのではないかというご意見でした。

【健康こども部長】

- ・現時点では、いなべ市と東員町はそれぞれの事業をやっておりまして、連携しているものがないという現状がございます。ただ、今おっしゃっていただいたように菰野町を含めての部分というのは担当者レベルで検討していきたいと考えています。

【座長】

- ・はい、検討をお願いします。他にご意見等ございますでしょうか。

【委員】

- ・菰野町が加わりましたので、お願いがあります。行政の区割りの在り方ですね。菰野厚生病院と三重北医療センターと連携をとったときも、いなべ市は桑員地区、菰野町は三泗地区、そこで連携協定を結ぶこと自体で、医師会から反対が出たり、いろんな意見があったりして、県にお願いしても難しいということがありました。センター化はしましたけど、1つお願いします。公共交通機関がいなべ市と菰野町の間にないんですよね。やるのであれば、各病院で車を出してくださいということで自家用車、当院は透析の車とかで送迎するわけですけど、将来的に三重交通さんとかでできないでしょうか。法律的に難しいのか、赤字になって難しいのかわからないですが、そのあたりが繋がればすごく良いまちになると思います。もう一つは、22ページのところに阿下喜ベース等が記載されていますが、いなべ公園は活用されないのでしょうか。良い施設だと思うのですが。

【都市整備部長】

- ・今回、菰野町との連携の中で、公共交通の連携を模索するという事で協定に至りました。いなべ総合病院と菰野厚生病院間の交通の連携ということで、どれくらいの需要があってどのような方法でやっていくのかということ、また経費も含めながら、検討課題ということで議題に挙げています。どのような形になるか分からないですが、頂いたご意見を参考に進めていきたいと考えております。

【建設部長】

- ・いなべ公園につきましては、都市計画の中の公園として、管轄が農林商工部ではないので、記載がありません。

【座長】

- ・ありがとうございました。本日参加いただいている企業の方にもご意見を頂ければと思います。

【委員】

- ・社員から住みやすい地域だということを知りますので、自信を持っていただければと思います。子育てしやすい環境であったり、生活しやすい、そもそも家の取得費用が非常に安いということが住みやすさに挙げられると思います。ただ、他のエリアから移ってきた方から出てくる声は、もう少し文化的な生活、要するに学ぶ環境を充実できないのかという声です。例えば、図書館の利用が非常にしづらいことです。閉館が17時ごろで、共働きをしていると、子ども

を連れて図書館の利用ができない。他の地域は20時ごろまで開館しているとか。毎日だけでなく、良いので、図書館の利用者数を増やすことを検討していただきたいです。子育てを含めて、いろんな世代の方が利用できる図書館というのは、文化的な生活拠点の一つになってくると思います。

もう一つ、空き家の問題が出たかと思います。三重県としても空き家対策に力を入れていると聞いていますが、県の空き家バンクのホームページを見ると、北勢地区の登録件数が0件です。県の南部の伊勢や尾鷲は、頑張って空き家対策をされていますので、県と色々な連携をしながら、利用できるものは利用していくことが必要だと考えます。

先ほど、座長の方からお話がありましたが、菰野町は1600メートルのところにロープウェイがあって、これはもう別世界ですよ。こんな街の中にありながら、自然もあって、文化的な生活もできてというのは日本中でもなかなかないところだと思います。もっとこういったところをアピールして、移住や定住につなげてもらわないといけないと思います。

【委員】

- ・三重交通でございます。今、バスの話も出ておまして、民間企業としてということですが、皆様もご存じのとおりバスを取り巻く事業環境が非常に昨今厳しく、なかなか大きな施策に取り組むことができないというのが現状でございます。人手不足であったり、燃料の高騰は高止まりしていて非常にダメージが大きいです。兆しのある所にはチャレンジしていかなければならないと思っておりますが、民間企業ですので、行政の力もお借りしていきたいです。バスのことに関しては老舗の会社ですので、たくさんノウハウを持っております。いろんなところでご支援させていただけるのではないかと思いますので、ご提案やご相談があれば問い合わせいただければと思います。

ロープウェイの話が出ていましたが、三重交通グループのものでして、このあたり観光が活性化すれば、さらに人が集まり住みよい街をつくっていけると思いますので、よろしく願いいたします。

【座長】

- ・ありがとうございます。これまで第3次の振り返りをさせていただきました。これらを踏まえて、先ほど諮問を受けましたが、第4次の定住自立圏の構想を具体的に検討していくのが今回の主旨であります。その中で、何をやるかということは次回にして、一番の成果指標である人口の推計を含めてこの圏域がどうあるべきかということを説明いただこうと思います。この圏域の人口は減少幅が少なく、人口を維持している全国的に見ても珍しい定住自立圏であります。ただ、第4次の5年の間にそれが維持できるかというのは瀬戸際な気がします。それを含めて、資料7に基づき説明していただこうと思います。

(3)第4次共生ビジョンの第1章～第4章について

【事務局】資料7…第4次共生ビジョン 第1章～第4章について事務局から説明。

【座長】

- ・最も重要なことは19ページにもあるように最終年度の2029年の人口目標を10万9000人という今とほぼ同じ数字で、減少しないためにどうするかという計画をこれから作っていかうということになります。最終ページに書いてあるとおり東海環状自動車道が全通することもある、菰野町をはじめ、様々な形で工場が立地しているわけにありますから、そこに住む人がよ

り一層増えていく。そのためには、子育て環境をどうやって充実させるか、多様な子どもたちをどういう風に引き受けるか、その面で安心な状況にあるということが重要です。また、本日の議論にもありましたが、いざという時の医療機関がどう充実しているのか。様々な課題がありますが、10万9000人を維持するために今後5年間でやるべきことを1市2町で具体的に検討していく前段の話でした。何かご意見等ございますか。何もない場合は次回の会議について案内をお願いします。

10 次回の開催について

【事務局】

- ・次回の会議は令和6年8月21日水曜日の午後2時から、こちらの会場で開催します。第5章についてご審議いただければと思います。グループに分かれて検討していただく形になります。

【座長】

- ・第5章で定住自立圏の具体的な計画について、現状と課題、施策を構成する事業を1市2町で今まとめていただいています。それについて、皆さんが発言しやすいように分科会に分かれて、細かく意見をいただけるような場を作りたいと思っています。計画を練り上げていき、住民の皆さんにパブリックコメントで意見をいただき、年度内には共生ビジョンを策定させたいということを確認させていただきまして、閉会でよろしいでしょうか。

11 閉会

【事務局】

- ・本日はご多用のなか貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第1回定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会します。どうもありがとうございました。

その他事項

- ・無し